

平成26年4月定例教育委員会会議録

平成26年度塩尻市教育委員会4月定例教育委員会が、平成26年4月24日、午後1時15分、塩尻総合文化センター302多目的室に招集された。

会 議 日 程

1 開 会

2 前回会議録の承認

3 教育長報告

- 報告第1号 主な行事等報告について
報告第2号 5月の行事予定等について
報告第3号 後援・共催について
報告第4号 平成26年度教育委員会事業部目標について
報告第5号 給食レシピサイト（愛称「こんこんレシピ」）の開設について
報告第6号 平成25年度中学校卒業生進路状況について<非公開>
報告第7号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について<非公開>

4 議 事

- 議事第1号 平成26年度塩尻市奨学生の選考について<非公開>
議事第2号 図書館サービス計画について

5 その他

- その他第1号 塩尻市スポーツ推進計画の策定について
その他第2号 塩尻市生涯学習推進プランⅢの策定について

6 閉 会

○ 出席委員

委員長	小 澤 嘉 和	職務代理者	渡 辺 庸 子
委員	小 島 佳 子	委員	石 井 實
教育長	山 田 富 康		

○ 説明のため出席した者

こども教育部長	保 科 隆 保	こども教育部次長 (教育総務課長)	小 林 克 則
こども課長	羽 多 野 繁 春	家庭支援室長	百 瀬 公 章
生涯学習部長	岩 垂 俊 彦	生涯学習部次長 (スポーツ振興課長)	青 木 実 美
社会教育課長	百 瀬 義 幸	社会教育課専門幹	渡 邊 泰 則
平出博物館館長	小 林 康 男	男女共同参画・人権 課長	寺 澤 好 則

市民交流センター長 伊 東 直 登
(図書館長)
子育て支援センター 掛 川 佳 子
所長

市民交流センター次 小 澤 和 江
長 (交流支援課長)

○ 事務局出席者

教育企画係長 米 窪 昌 紀

1 開会

小澤委員長 こんにちは。ただいまから4月の定例教育委員会を開会いたします。よろしくお願いいたします。

4月1日付の人事異動で転入された、あるいは昇任された事務局職員の自己紹介をいただきます。部長さん以下、係長さんまで自己紹介でよろしくお願いいたします。

伊東市民交流センター長(図書館長) それでは、私からになりますが、引き続きお世話になりますけれど、市民交流センター長を兼ねて図書館長ということに4月からなりましたので、よろしくお願いいたします。

小林子ども教育部次長(教育総務課長) 子ども教育部次長ということで、この4月から教育総務課長引き続きでございます。小林克則でございます。よろしくお願いいたします。

百瀬家庭支援室長 家庭支援室長としてまいりました百瀬と申します。よろしくお願いいたします。

百瀬社会教育課長 生涯学習部の社会教育課長としてまいりました百瀬義幸と言います。よろしくお願いいたします。

小澤市民交流センター次長(交流支援課長) 昨年度に引き続きましてですけれども、市民交流センターの次長兼ねまして、交流支援課長の小澤和江です。どうぞよろしくお願いいたします。

寺澤男女共同参画・人権課長 男女共同参画・人権課長、寺澤好則と申します。よろしくお願いいたします。

芦澤保育係長 子ども課課長補佐兼ねまして保育係長の芦澤と申します。よろしくお願いいたします。

上條市民活動支援係長 市民交流センター交流支援課課長補佐を拝命しました市民活動支援係長、上條吉直です。よろしくお願いいたします。

宮坂子育て支援センター担当係長 子育て支援センター子ども広場の宮坂稲子です。よろしくお願いいたします。

清水北部子育て支援センター所長 北部子育て支援センター所長でまいりました清水美津と申します。よろしくお願いいたします。

百瀬子ども応援係長 子ども課子ども応援係長の百瀬一典と申します。よろしくお願いいたします。

田中保育担当係長 子ども課保育係担当係長の田中博久と申します。よろしくお願いいたします。

宇治橋企画運営係長 市民交流センター交流支援課企画運営係長の宇治橋多恵と申します。よろしくお願いいたします。

武田図書館係長 市民交流センター図書館係長の武田文秀と申します。よろしくお願いいたします。

米窪教育企画係長 事務局を務めさせていただきます教育総務課教育企画係長の米窪と申します。よろしくお願いいたします。

小澤委員長 ありがとうございます。1年間よろしくお願いいたします。

続いて、教育委員のほうから自己紹介させていただきます。教育委員長の小澤嘉和です。よろしくお願いいたします。

渡辺職務代理者 委員長職務代理の渡辺と申します。よろしくお願いします。

石井委員 教育委員の石井實です。よろしくお願いします。

小島委員 同じく教育委員の小島佳子です。よろしくお願いいたします。

小澤委員長 新年度に当たり一言申し上げます。このように新進気鋭の新メンバーをもって第1回教育委員会定例会が開催できますこと、うれしく思います。ことしもよろしくお願いいたします。

新聞の報道の限りでありますけれども、この6月末、新しい教育委員会制度が制定され、来年の4月から施行されると、こういうことであります。ですから、このような形での会議は今年度限り、どうなのかまた新たな模索が始まるなあ、こんなことを思っております。

これから教育長報告にも述べられると思いますけれども、新入生が在校生に守られながら登校する風景がそこここに見られます。守りつ守られつつ新たな関係を築いていく、この関係づくりの原風景は時が変われども繰り返されていると思い、安堵感を覚えます。

4月がスタートした途端、近隣では不祥事が発生しました。南信のほうでは入学式での記念撮影のあり方、あるいは県外では新入生の担任の入学式欠席等々、さまざまな事案が発生しております。教育委員会は、校長からこういうような相談を受けたとき、どう即答できるか。これらを生きた学習の機会と捉えて、子ども日ごろの危機対応能力を磨いていく、そんなことが大事なと改めて思いました。

さて、過日教育長からこんな話を聞きましたので、まとめにかえさせていただきたいと思います。それは、新たに着任された何人かの職員の方が、教育長にここはこういうふうに変更あるいは見直しをしたいとか、こういうビジョンをもって、こういうふう膨らませたいというような抱負を話してくれた、こんな話を聞きました。教育長は大いに乗り気でありました。うらやましいなあと思いました。私は人事異動のメリットを感じるとともに、常に進化発展しようとする上昇志向を求める事務局の皆さん方の姿勢、あるいは気概、これを感じました。そして、確かな手応えを覚え、よしと意を強くした次第であります。私たち4人、今年1年みずから奮い立たせながら、また事務局の皆さん方から刺激をいただきながら、任務を果たしていきたいと思っております。お世話になりますけれども、よろしくお願いします。

それでは、係長さん、課長補佐さん、ありがとうございました。

2 前回会議録の承認について

小澤委員長 次第に従いまして2番、前回会議録の承認について事務局からお願いいたします。

米窪教育企画係長 前回3月定例教育委員会の会議録につきましては、既に御確認をいただいております。本会議の終了後に御署名をいただきますので、よろしくお願いいたします。

3 教育長報告

小澤委員長 3番、教育長報告に入ります。教育長から総括的にお願いいたします。

山田教育長 お願いします。今年度最初の定例教育委員会です。今年度もよろしくお願いいたします。

寒暖の差が非常に激しいわけでありまして、桜の花も大分散しました。いよいよ新緑に覆われる季節が近づいて来たなと思います。風薫る穏やかな季節をこれから迎えるわけですが、国・県の教育改革に向けたさまざまな動きに目を向けますと、安閑としてはられないなというのが実感であります。これから進むと思われ教育委員会制度の抜本的改革、道徳教育の徹底や英語の教科化、また教科書検定制度の抜本改革など、私たちも教育改革への方向性については常に注視をしていかななくてはいけないと思うわけでありまして、教育行政を預かる者としては、

それに振り回されたり、惑わされたりし過ぎることなく冷静にまた注意深く足元の教育課題の背景について見つめ、中長期的な視点を見失うことなく、継続的な施策展開をしていかなければならないなどというように考えているところであります。

そうした面で今年度は、第四次総合計画後期計画の最終仕上げと、それから第五次総合計画のスタートのかけ橋となる大切な時期になるわけであります。教育委員会としても第五次塩尻市総合計画とリンクさせながら未来に向けた人づくりのあり方を示すべく、塩尻市教育振興基本計画、子ども・子育て支援事業計画、生涯学習推進プラン、スポーツ推進計画、子ども読書活動推進計画など、策定を進めていくこととなります。これだけ多くの計画を同時に策定していくわけでありますけれども、策定に当たっては、これまで実施してきた施策の評価を客観的に進め、その成果の要因でありますとか、課題の背景をしっかりと分析、把握し、塩尻市の持つ強みや特性を十分に生かしながら策定を進めたいなどというように思っております。そして、これから未来の田園都市塩尻が、どのような豊かさや住みやすさを持ったまちであればよいのか、そのためにどのような人づくりを進めることが必要なのか、人づくりのために進めるべき施策の方向はどうあるべきかなどを十分協議し、描き、共有しながら、それぞれの計画が対象としている子供や市民にとって生きている喜び、生活の充実感や自己成長による自尊感情の高揚につながる塩尻市らしい計画を、私たち自身も主体となって策定していかなければならないなどというように考えております。

また、現在策定に向けた取り組みを進めております市民ミーティングでも地域の方々の御意見をお聞きしている第五次総合計画では、30年後にも選ばれる地域であり続けるための基本戦略が検討されております。幾つかの案が出ておりますけれども、私は全ての戦略についてその基盤として揺るぎなく存在しなければならないものが、私たち教育委員会の仕事と深くかかわっているのではないかなどというように考えております。30年後にも選ばれるために、私たちは愛着関係が豊かに醸成される子ども・子育て環境をつくらなければなりませんし、生きる力が伸び伸びと育まれる学校教育環境をつくらなければなりませんし、そして主体的、創造的に学び続け、それを生かし社会貢献できる生涯学習環境をつくっていかなければならないのではないかなど、そのように思っております。これまでも、市長の掲げる重要施策である教育再生を人づくりから始まる地域づくりと捉えて、さまざまな施策を積極的に取り組んできております。今年度も第五次総合計画で描いていくこれから先の中長期的な視点を持ちつつ、子ども・子育てや学校教育、生涯学習などの現場の実態や将来に向けた課題、また市民の切実なニーズによって決め出してきております今年度実現すべき事業の目的や目標、これからまた話があると思っておりますけれども、そうした事業について常に目的、目標に立ち返りながら効果を生み、成果につながるよう事業推進をしていかなければならないなど、そのように思っております。そして、これは少しオーバーな言い方ではありますがありますが、未来を開く教育こそが本市のトップブランドと自負できるようにしていくことを願いたいなど、そんなことを思っております。

話は変わりますが、4月は着任式、入園式、それから入学式、始業式などが行われ、さまざまな場で年度のスタートが切られました。各校のスタートに当たり、入学式に参加いただきました各教育委員さんは、どのような印象を持たれたのでしょうか。感想をお話いただけるとありがたいと思います。

前回、4月14日に行われました第1回の校長会では、各校長が今年度の学校運営の重点について話してくれました。私ども、それを聞いたわけでありますけれども、その後、各校長がどのようなことを言ったかなどということを、そのキーワードに当たるものは何かということで、私一度整理してみました。そうすると1つの傾向性が見てとれるなどというように思います。校長先生方が考えられる大前提としては、どの学校も子供を中心に、中核に据えた学校運営の推進を図りたいという

ことがありました。このことは、県の教育委員会でも使い始めましたけれども、スチューデント・ファーストとも言えるものではないかなと思います。この言葉のとおり学びの主体であるべき児童生徒の利益を最優先に考えることですので、教育委員会としてもしっかりと共有し、同じ立場で教育現場を支えてまいりたいなと思います。このほかのキーワードとしましては、地域との連携、それから授業改善と学力の向上について多くの学校から出されました。さらに体験活動を大切にしたい心の教育の充実、体力の向上などについても出されております。これらは全て現代教育の重要課題でありますので、各学校がこの課題解決に向けて具体的な手当てを持ち、また特色ある教育活動交付金も十分に活用しながらこうした課題に向き合い、学校組織を機能させ、精力的に実践をし、成果に結びつけていくことができるとよいなど、そのようにまた教育委員会としても全力でバックアップしてまいりたいというように思います。以上、報告といたします。

小澤委員長 ありがとうございます。この際であります。教育委員のほうで、例えば入学式等で参加した中で感じた点があったら、お話しください。

よろしいですか。またの機会にお話しいただければありがたいと思います。

○報告第1号 主な行事等報告について

小澤委員長 次に報告第1号、諸行事の報告についてであります。資料の1ページ。参加された中で御感想等あったらお話しください。

○報告第2号 5月の行事予定等について

小澤委員長 次に報告第2号、5月の行事予定を見てください。教育委員みんなが集まる日は、5月14日、15日、16日、それから29日となります。御時間があったら8日の市長講話、あるいは24日の市陸上競技記録会などに、顔を出していただければありがたいと思います。米窪さん、ウィーン少年合唱団公演、これについてちょっと説明してください。

米窪教育企画係長 ウィーン少年合唱団ですけれども、こちらレザンホールが主催となっております。こちらのほうにつきましては、下に資料がありますので後で御説明いたします。

小澤委員長 これについては、協議会で御説明ください。

5月暦、よろしいでしょうか。それでは、次にまいります。

○報告第3号 後援・共催について

小澤委員長 後援・共催であります。資料は3ページから6ページまで。訂正があるようであります。事務局お願いします。

米窪教育企画係長 1カ所訂正があります。3ページに記載漏れの後援事業がありましたので、今日お配りしました資料No. 3-1、3ページと書いてありますけれども、こちらの資料と差しかえをしていただいて、ご覧いただきたいと思います。記載漏れのあったものにつきましては、4番目に入ります平成26年度明るい選挙啓発ポスター作品募集についての後援になっております。以上です。

小澤委員長 ありがとうございます。後援・共催よろしいでしょうか。

○報告第4号 平成26年度教育委員会事業部目標について

小澤委員長 それでは、報告第4号、平成26年度教育委員会の各事業部についての説明に入りたいと思います。初めに、こども教育部、保科部長のほうからお願いします。

保科こども教育部長 それでは、こども教育部のほうから御報告させていただきます。資料の7ペー

ジをごらんください。7ページでミッション1ということで、ページめくっていただいて、2段になっておりますがミッション2とミッション3ということで、こども教育部では、平成26年度の事業部目標をこの3つのミッションでまとめさせていただきました。以前、各予算立てに分類いたしまして6つミッションとしていたものを、昨年度こども教育部の設置目的でございます0歳から18歳までの子供の継続した支援、これを1つの部で一貫して行うという原点からこども教育部3つの課がございますけども、この予算枠を目的別に統合しまして、この3つのミッションに整理いたしましたので、平成26年度の事業部ミッションにつきましてもこの3つで整理をし、大きな変更点はございません。ただ、26年度予算の1つの大きな事業といたしまして、ミッション1の中で重点事業といたしまして特色ある教育活動交付金、これが新規計上をされておりますので、ミッション1の中にこの交付金の大きな目的であります子供たちに生きる力をつけると、育むという言葉を加えさせたというのが前年度との変更点でございます。

それでは、具体的な事項について御説明をさせていただきます。まずミッション1ですが、子どもと保護者のために、幼稚園・保育園、小学校、中学校の成長段階に応じて継続した就学支援を行うとともに、生きる力を育み、総合的な学力の向上と個に応じた指導を進めるため、きめ細やかな学習支援を行います、としております。特に幼保小中の一貫した支援ということを主にあらわしております。このミッションの重点事業では、6つの事業をピックアップしております。それぞれの事業につきましては、以前に予算の概要説明をさせていただいておりますので、簡潔に申し上げますのでよろしくお願いいたします。

1の教育相談研究事業、これは主に不登校の予防、改善を図るための事業でございまして、学校支援コーディネーターを中心としたチーム体制で不登校児童生徒に対して、個々の状況に応じたきめ細かなフォローや未然防止策を行うこととしています。また、Q-Uアンケート、楽しい学校生活を送るためのアンケート調査で、安定した学級運営のための資料、あるいは、いじめの把握対策としても大変効果的なアンケートになります。

次の学校給食公会計の運用、これは平成24年度までは学校ごとに給食費を徴収して、学校ごとに食材を購入していましたが、25年度から給食費を市の一般会計で一括して徴収しまして、食材費の支払いも一括して市で行うとしたものでございまして、これによりまして保護者の利便性の確保と学校やPTAの負担が軽減をされました。また地産地消の推進を図るために、本年度につきましては新たに米粉パンの提供回数をふやしますし、地域食材を生かした学校給食レストラン、これを昨年度に引き続き実施するものでございます。

次の特色ある教育活動交付金、1校当たり200万円を上限に交付いたしまして、児童生徒の生きる力の育成を図るものでございまして、新規事業でございまして、議会からもこの交付金の趣旨がより生かされるように、執行状況については常に把握することが求められておりますので、この交付金の成果については、各学校ごとに最低1回以上発表することを数値目標として設定をしております。

次の家庭教育の支援、これは「早ね、早おき、朝ごはん、どくしょ」を推進いたしまして、子供たちの基本的な生活習慣の定着を図るものでございますし、子供たちを暴力から守るためのCAP研修を引き続き実施するものでございます。

次の元気っ子応援事業、継続事業でございまして、乳幼児健診から全ての子供たちの個性や特性を把握しながら健やかに成長できるよう支援を行っておる事業でございまして、この事業、開始してからの子供たちが本年度から中学校に進学いたしましたので、中学校との連携も推進していくものでございます。

次のまなびサポート事業、これは特別支援が必要な児童生徒に、塩尻市といたしまして特別支援

講師と支援介助員を配置するものでございますが、本年度は特別支援講師を1名増員。これは両小野中学校になりますので別会計になりますが、1名増員。それから支援介助員は2名を増員いたしまして、本年度からは15名ということで対応するものでございます。

ページをおめくりいただきまして、ミッション2になります。子ども、保護者、教職員及び地域住民のために、安心して子どもを生み、健やかに子どもが育つ安全で安心な環境をソフト・ハード両面から整備しますということで、特に安全・安心な環境整備ということのミッションでございまして、重点事業では5つの事業をピックアップさせていただいております。ごらんとおりでございまして、1が吉田原保育園・吉田児童館分館建設事業でございまして、本年度はこの実施設計を行って、翌年度建設という形になります。

2は、塩尻東児童館。これはNo. 5の塩尻東小学校大規模改修事業にあわせまして、余裕教室を改修して学校の2階に塩尻東児童館を設置移転するものでございます。

3は、小学校プール改修事業で、年次計画に従いまして吉田小学校プールのほうは改修を実施をいたします。また、桔梗小学校プール、これは劣化が激しいため、プール内部表面等の一部改修を緊急に実施をさせていただくというものでございます。

4は、学校施設非構造部材耐震化推進事業、本年度は主に体育館のつり天井の改修を実施するというものでございます。

次にミッション3ですが、子どもと保護者のために、次世代を担う子どもたちを育成する「教育振興基本計画」や「子ども・子育て支援事業計画」に家庭や地域の意見を反映させるとともに、積極的に情報発信をし、市民に信頼される開かれた教育行政を推進します。開かれた教育行政の推進ということで、3つ目に挙げさせていただいております。このミッションの重点事業、3つの事業でございまして、そのうち教育振興基本計画と子ども・子育て支援事業計画につきましては、昨年度と本年度の2カ年で策定するものでございますし、教育委員会議録等の公開につきましては、既に進めており、実施しておりますが、より透明性のある教育行政を推進していくことということの姿勢を示すために、重点事業としてピックアップさせていただいたものでございます。こども教育部につきましては、以上でございます。

小澤委員長 ありがとうございます。各部ごとに質疑応答をしていきたいと思っております。それでは、こども教育部の1年間の施策、説明いただきました。何回か扱ってきておりますので質問も少ないかと思うんですけども、改めてお聞きしたい点、お寄せください。

小島委員 特色ある教育活動交付金についてなんですが、各学校が何に使うのか、私は先日、一覧表を添付していただいて拝見させていただきましたが、あれはホームページには載っているものなのでしょうか。

小林こども教育部次長（教育総務課長） まだホームページに出しておりません。市の教育委員会としてはやりません。しかし、学校単位で今後、広報や何かの一環として出てくる可能性はあります。

小島委員 市としては、一覧表は出さない。

小林こども教育部次長（教育総務課長） 今のところ出してないです。

小島委員 そういうことなのですね。わかりました。ありがとうございます。

小澤委員長 関連して、各学校1回以上の発表を行うということでもあります。発表の仕方ですけども、2学期後半に相当集中するなと思います。それで、発表の対象は、その学校の範囲内なのか、あるいは全市、あるいは松本とか広域をも含んだエリアを対象にするのか、そこら辺のイメージはどうですか。

小林こども教育部次長（教育総務課長） 昨日校長会がございまして、その中で今回、3月議会については附帯決議もついたこともありまして、今回の特色ある交付金の取り組み方についてお願いを

申し上げたところです。その中で、その発表については回数もそうなんですけれども、対象についても、地域の人ですとか、PTAだけではなくてですね、そこら辺まで広い目で取り組んでいただきたいというお願いをしています。ただ、市外とか長野県とか、ちょっとそこら辺までについては、そこまでの発表ができるものなのかどうなのか、取り組みの内容にもよりけりなんですけれども、とりあえず学校の中だけで発表というわけではなくて、やはり地域、そういったものにも発信をしていただきたいと、そういうことでお願いをしました。

小澤委員長 身の丈にあった発表になるなと思います。2年目ぐらいになってきて手応えを感じたときには、相当世間に広くアピールというか、公開みたいな形をとることも私はやってほしいなと、そのくらいのエネルギーを持ってほしいなことを思うわけでありまして。アドバイスをしていただければありがたいと思います。

山田教育長 そういう方向も1つ考えていかななくてはいけませんけど、やっぱり一番重要にしなければならないのが、何のためにそのお金を使うかということです。先ほど部長のほうからも話があったように、これはあくまでも子供たちの生きる力をつけるためにやっていくことなので、その成果をただ形としてだけ報告会というような形で報告するのではなくて、その学びの経過そのものが子供たちの生きる力に結びつくものなので、私が一番期待したいのは、経過をどう子供たちが自身で自分の記憶にとどめ、またその経過をどう保護者や地域の方々に伝え、その先にどういう子供たちが育ったのか、どういう成果があらわれたのかという、そういう目で見た、線としてつながる発表の仕方を考えておく必要があるのではないかと思います。ですので、ここにある成果の発表各校1回ってというのは、それにつながる長い取り組みの経過というものを大事にした上での発表というように考えていかななくてはならないかなというように思っていますので、そんな点も各学校とも共有し、大事にしていきたいと思います。

石井委員 経過についてはね、幅があるんじゃないかと思います。結果については、1年、2年で全部じゃないと思いますし、そういったことについては、長い目で見るということが大事だなと思っています。

渡辺職務代理者 ちょっと細かいところで申しわけないです。8ページのミッション3の3のところの金額なんですけども、この説明内容にしては随分な金額を、861万円余という金額が出てるんですけど、ちょっと説明お願いできますか。

小林子ども教育部次長（教育総務課長） 実はですね、この861万3,000円は、教育委員会事務局事務諸経費という、要は教育委員会事務局の事務的経費の一切というのを挙げています。ですから純粹にホームページの掲載だけですと、要は職員の手間だけですので、具体的にはそんなにお金がかかるものではございません。ただこのところの予算としてはですね、上のところの教育振興基本計画の策定と金額同じですけども、事務局事務諸経費の中の1つの事業費としてまとめて、このところの金額はお示しをさせていただきます。

渡辺職務代理者 そうするともうちょっと違う表現方法をとれないのかなって、ちょっと誤解を受けやすいなっていう感じしますけど。

小林子ども教育部次長（教育総務課長） 1つは、ミッションの事業部目標でですね、これは、事務事業評価というところにリンクをしてきます。その事務事業評価の評価単位というのが、事業費単位のものになってきます。そこでのリンクも考慮して、今回その事業費の総額、私どもの予算書の白丸ってよく言ってるんですけども、事業費単位になっているところを今回はまとめて示させていただいているという形になってます。確かにわかりづらいことはわかりづらいです。

小澤委員長 よろしいですか。

1点、お願いします。2番の公会計化の項であります。昨年から実施されて、学校側が負担軽減

で相当喜んでいと思います。実際にそういう声も聞きます。その手間のあいた分は子供に還元する、あるいは学校運営に還元する、こういうことであつたわけでありませう。ちょっと意地悪な質問で申しわけないが、浮いた時間、学校側はどういうような還元をしたのか。また、今年はそこへプラスワン、どんなことを期待するのか。イメージがあつたら教えていただければありがたい。

小林こども教育部次長(教育総務課長) まず、この今回の公会計化に伴いまして、やはり学校関係、特に事務の先生ですとか、担任、それから先生全般からは非常に事務の軽減になっているということで感謝の言葉をいただいております。ではその浮いた時間を何に使っているかという形になりますと、1つには、今、教員の多忙感ということが言われておりますけれども、その多忙感を感じる1つの要因となる事務が減少したという、こちらと理解をしております。ですので、幾らかでも給食費の徴収事務の部分が軽くなってですね、それが子供に向く時間に充てられているのではないかとこのように考えております。ですので、どのぐらい先生方が、給食費の徴収やら何やらにどのぐらい時間とか、あるいは御苦勞をいただいていたかという具体的な物理的な数量的なものとはちょっとわかりませう。ただ、1つのプレッシャーというか、そういった要因が1つなくなったことによって幾らかでも、その多忙感の緩和、そういったものにつながってそれが子供に向き合う姿に反映していただければいいんじゃないかとこのように考えております。

小澤委員長 ありがとうございます。例えば栄養士の先生方が教室に出向いて栄養指導をするとか、あるいは食育にかかわるような場面が多くなるとか、そんなことがふえてくれればうれしいなと思うわけでありませう。協議会のほうで本年度の学校訪問のスケジュールがでますので、またそこら辺のところでも話題にしていきたいなと、そんなことを思っております。ありがとうございます。

こども教育部、よろしいでしょうか。それでは岩垂部長からお願いします。

岩垂生涯学習部長 それでは、引き続きまして9ページからお願いいたします。生涯学習部の関係ですが、ミッションは全部で5つ掲げておりますけれども、ミッションの1と2につきましては社会教育課の関係になります。

ミッションの1ですが、自主的な生涯学習活動の推進でございます。重点事業の全国短歌フォーラムにつきましては、今年度お題が「宿」でございますので、木曾漆器祭・奈良井宿場祭、塩尻四宿400年祭との連携を図ります。2番の芸術文化の関係では、芸術文化6事業のほか、いわさきちひろピエゾグラフ展の開催を行います。公民館事業でございますが、誰にでも生きがいを持って豊かな生活ができるように機会の提供を図ります。4番の大門地区センターの建設ですが、大門連合公民館が老朽化し耐震性に問題があるために、28年を完成という形で今年度は実施設計、地質調査を行うものでございます。

ミッション2でございますけれども、文化財の保護と重要文化財の修理事業を促進し、重伝建築の保存・活用を行います。重伝建の整備事業でございますが、今年度は奈良井、木曾平沢あわせまして修理4件を実施する予定でございます。重伝建の防災施設整備事業につきましては、消火栓・貯水槽を整備いたします。3番の国指定文化財修理事業につきましては、堀内家の半解体修理を27年から31年の計画で実施したいわけでございますが、これに向けまして今年度につきましては事業採択を10月に向けて上げたいというような形でございます。

めくっていただきまして10ページ、ミッション3でございます。スポーツ振興課の関係ですが、「市民みな1スポーツ」の普及・推進でございます。新体育館の方向づけにつきましては、25年度で研究チームが検討結果をまとめております。今現在まだ多少まとめている最中で、修正している段階でございますけれども、これがまとまりましたら議会への報告等またしていきたいというふうに考えております。2番のスポーツ推進計画の策定につきましては、後ほどその他の中で説明させていただきます。3番の市民プール改修事業につきましては、ウォータースライダー

耐震補強工事等を計画しております。

ミッションの4でございます。男女共同参画・人権課の関係で、人権意識の向上と男女共同参画の推進を図ります。1番の社会人権教育推進事業につきましては、企業人権教育研修会、豊かな心を育む市民の集いを開催してまいります。やさしく女と男推進事業につきましては、21世紀セミナーの開催などがありますが、一番下にありますように、DV相談を含む女性相談につきまして特に今年度は市全体の窓口が男女共同参画・人権課ということで推進してまいります。

11ページでございますが、ミッションの5でございます。平出博物館の関係になりますが、平出博物館、平出遺跡などの歴史遺産の大切さや魅力を広く伝えるものでございます。平出博物館運営事業では、開館60周年を記念いたしましてウッドバーニング展、発掘された窯展等、あと散策マップの作製を実施いたします。次の2番でございますが、同じくひらいで遺跡まつり、アドベンチャーinひらいでを開催いたします。3番になりますが、平出遺跡発掘調査報告書「縄文篇」の刊行というように形で実施する予定でございます。以上でございます。

小澤委員長 ありがとうございます。生涯学習部について御意見等お寄せください。

1点お願いします。ミッション1の2番であります。芸術文化事業。昨年度はミッション6に分かれていて、この芸術文化事業の中に地域文化の啓発という項があり、ワイン物語だとかあるいは歌人物語が入っていました。今年はやらないってことじゃないと思うんです。多分どこかへ載せる予定だったと思いますが、そこら辺の背景はどうなのかちょっと教えてください。お願いします。

岩垂生涯学習部長 この関係につきましては、本年度、本の発行という形で計画しております。続きまして来年度以降も、1年間に原稿をつくりまして次の年に発行という形で計画しておるわけですが、今回そのミッションを、今まで6つございまして、1と2につきましても、1がですね、それぞれ分かれていたものですから、それをちょっと整理した関係で表面上出てこないですが、物語シリーズについては予定どおり計画をするということでございますので、お願いいたします。

小澤委員長 理解いたしました。

もう1点。このミッションとはちょっと関係ないんですけども、お願いします。平出博物館の開館時間、日時のことなんです。2月のときに高校生が発掘したという大きなイベントがありました。それで、ある方から、イベントが開催中にもかかわらず、閉館日があるというのはちょっとどうなのという、ご意見がありました。

イベント中だからセオリーはやめて柔軟性を持たせてほしいと、こういう訴えです。また心にとめておいてください。

小林平出博物館館長 わかりました。

小澤委員長 生涯学習部、よろしいでしょうか。それでは伊東センター長、お願いします。

伊東市民交流センター長（図書館長） それでは12ページ、お願いいたします。市民交流センターですが、ミッション3つに分けております。それぞれの課の対応になりますが、ミッション1、交流支援課になります。市民交流センターを活用した人づくりの場提供、あるいは多様な主体によるまちづくりを目指した運営を行っていききたいということで行ってきておりますが、1番のセンター管理諸経費につきましては、額も大きいですが、いわゆる管理を、施設全般を請け負っておりますので、安全で使いやすい施設運営を心がけてということで、数値目標もごらんのような数字にしております。それから2番目の交流企画事業につきましては、そこで行われているソフト事業の関係になりますけれど、センターの利用を促進するためということで年間幾つもの事業を行っております。その中に載っております。それから、3番目につきましては協働のまちづくり推進事業ということで、市民の皆さんの主体的な事業活動とか、あるいは団体の自立支援などを行っていききたいということとあわせて、今年度は市民交流センターの運営方法についても市民営というような

ことを当初からうたっているものですから、その検討もあわせて今年度はスタートさせたいというふうに考えております。

ミッション2につきましては子育て支援センターの関係になりますが、子育ての不安の軽減、あるいは子どもの健全な育ちと地域の子育て力の育成などを旨とした交流会や研修、出前支援などの幅広い支援を行ってまいりたいということにしておりまして、1番は子育て支援センター関係ということになります。情報の提供、講演会、交流会等々、お父さんたちも巻き込んでの事業あるいはグループの支援というようなことをやっていきたいと思っておりますし、こども広場につきましては、こども広場の安定的な利用それから安全な利用、特に木育ということが全国でも先駆けて行われる1つの拠点になっておりますので、そちらのほうも継続して行っていきたいというふうに思っております。目標値につきましては、利用者数を双方とも掲げてございます。

13ページに移っていただきまして、図書館の関係になります。多様なニーズに応えられる図書館、そして生活や仕事の課題解決に幅広く役立つ図書館を目指していきたいということをお願いしております。3つとも例年通りというか、あんまり変わってございません、基本的には、1番目の図書館サービス基盤整備事業は、図書館の基盤というのは資料でございますので、図書館資料を充実させていくということでやっておりますが、目標につきましては、資料が増えればいいということではないので、資料がいかにか活用されるかということでレファレンスの数ということを1つの目標にさせていただいております。図書館としては、これが全体の目標にもなっております。それから、本の寺子屋推進事業は「信州しおじり本の寺子屋」だけの事業ではありませんが、図書館で行われる講演会、講座、企画展等の事業の総体としてこの名前を使っておりますけれど、今年度も引き続き、3年目になりますが、事業をつないでいきたいというふうに思っております。以上です。

小澤委員長 ありがとうございます。市民交流センターに関係していかがでしょうか。

小島委員 ミッション2にあります出前支援、年80回になっておりますが、具体的にはどのようなことが出前支援になるのでしょうか。教えてください。

掛川子育て支援センター所長 支援センターでは、支援センターの中で行っているいろいろな交流会や講座にご参加いただいたり、親子で遊びに来ていただいたりというような活動が主になりますが、そこになかなか出てこれないお母さんたちに対してどう支援するかという部分が課題になっております。今年度は健康づくり課と連携をしまして、各地区センターで行っている2カ月相談に職員が出向き、「支援センターではこんなことをやっていますよ」とか「何か困ったことがあったら言ってくださいね」ということを一人一人のお母さんたちと直接話す機会にしたいと思っております。それともう1つは、いろいろな課題をお持ちの家庭に対して、直接訪問させていただく場合もあります。

小島委員 わかりました。ありがとうございました。

小澤委員長 こども課で行った子育て支援にかかわる市民アンケート、この中、若いお母さん方が1人で悩んでいるという数字が結構あったんです。そうしたときに、おいでよと言うんじゃなくて、どうしたのという、こういう姿勢でお母さん方の中へ入っていくってことは大変大事なことです。それで過日の新聞報道にも、健康診断を行う際に、現役の園長先生方がそこへ参加して下さって相談に乗ってくださると。大変好評です。だから、機会を見つけて、放課後児童教室だとか児童館だとか、そういうところへも行って声をかけて関係をつくるっていうことがうんと大事なことです。そういうアクションをつくっていただければ喜ばれるなということを思いますのでお願いします。交流センター、よろしいでしょうか。

ありがとうございました。これをまたもとにしながら1年間私たちいろいろな活動状況等々見させていただくわけでありまして、また機会を見つけて御意見等お寄せいただければありがたいと思

ます。お願いします。

○報告第5号 給食レシピサイト（愛称「こんこんレシピ」）の開設について

小澤委員長 それでは、報告第5号給食レシピサイトの開設について御説明をお願いいたします。

小林子ども教育部次長（教育総務課長） それでは、資料No. 5をお願いいたします。給食レシピサイト（愛称「こんこんレシピ」）の開設についてということでございます。目的といたしまして、このサイト開設の目的でございますけれども、本市で食育の推進ですとか、あるいは自校給食の実施等をしておりますが、その自校給食で培った特色ある給食メニュー、これにつきまして家庭でも応用していただく、もしくは各学校ごと、給食日より出しておりますけれども、ほかの学校はどんなものを食べているのかだとかですね、そういったものの御要望もでございます。そういうところの中で給食のレシピを掲載しましたホームページを作成をいたしました。25年度事業ということで塩尻市振興公社のほうにシステム等の設計それから制作はお願いしまして、メニューについては各学校の栄養士から、各学校から提供いただきましてシステムの構築を始めて、この4月1日から一般に向けての公開という形になったものでございます。

ホームページのアドレスは、<http://konkon.jp> という、わかりやすい、「こんこん」というのは、いわゆる塩尻の場合、玄蕃之丞伝説がございますので、そのキツネを生かして、親しみやすいということでこの名前にしてございます。中身はレシピサイトですので、作り方、メニューが載っているというものになりますけれども、全体的に淡いパステル調の柔らかい感じのホームページになっておりまして、この下のほうにロゴマークがあるんですけども、キツネの玄蕃之丞なんかをですね、あしらったホームページになっております。また、給食レシピを探しやすいということで、例えば食材から探すとかですね、あるいは健康にいいものというようなカテゴリーから探すとかですね、そういった形で幾つかの検索ができるというものになっております。

また、資料には、この資料の掲出日ですけども、4月17日現在のレシピのこのサイトの大体アクセス数ですとかを載せてございます。今載っかっているレシピ、メニューの数は100件でございます。総ページビュー数は4月1日から17日までで1万356件ということで、今のホームページで比較的ビュー数が多いもので3,000から5,000ビューぐらいと言われておりますので、半月あまりでこのぐらいというのは結構出足がいいのかなと。マスコミ新聞等、あと一部、先々週SBCラジオのお昼の番組にうちの給食係長が出演してしゃべっていましたが、そういうような形で各方面から取り上げられている部分もありまして、ページビューは伸びているのかなというふうに思っております。また、訪問時のページビュー数というのは、1回このトップページへアクセスして、あと何ページ見たかという数ですが、おおむね7.72ページぐらい見ているという形になります。また、平均滞在時間は大体5分ぐらい見ているということですので、それなりに定着して見ていただいている方が多いのかなという状況です。また、直帰率というのは、ページに1回アクセスしてトップページ見たんだけど、そのままどこかへまた行ってしまった、1回ぼんと来ただけでまた帰ってしまうという人が大体29%、大体3割ぐらいということで、普通のホームページの運用上は結構いいと。要は、あと7割の人はじっくり見ていってくれるという形になっております。ユーザー層が、これ見てみますと、大体アクセスをしてきたところのアクセスポイントからの見たデータですけども、案外塩尻が少なくですね、長野、松本、変わったところでは渋谷区とか佐久という形が上位に出てくる。渋谷区につきましては、塩尻市と一緒に民間とやっておりますワインバーが、今回業態を変えて新しい「塩尻醸造所（仮）」という名前になったので、そこら辺の影響もあるのかもしれませんが。また、そこでも宣伝していただいているのかもしれませんが。ちなみに、きのうまでの現在の総ページビューが一応カウントされていまして、

それだと1万3,040件になっています。ですので、先週の17日から23日までのおおむね1週間で2,700件弱のビュー数がふえていますので、こういった形の中で多くの方からですね、親しんでいただければと思っております。

なお、今後ですけれども、今年度、先日学校栄養士会がありまして、そこでもお願いをしてきましたが、最低各学校2つはメニューを追加してほしいということでお願いをしてあります。ですので、今年度末には130件ぐらいの収蔵数にはしていきたいなということで考えております。それで、新しいものをつけ足しながらより見続けていただける、リポートしていただけるホームページを考えていきたいと思っております。

小澤委員長 ありがとうございます。すごい反響のレシピサイトであります。これをお聞きしているかがですか。

小島委員 私も早速見てみました。確かにおっしゃるとおりに食材ごとにクリックできたり目的ごとにメニューを選べたりして、とても見やすく大変いいなと思いました。ただサバのメニューが1品しかなくて寂しいなと、せっかくおいしいメニューがたくさんあるので、どんどんどんどんアップしてほしいなと思いました。以上です。

小澤委員長 非常に反響が多くてうれしいことでもありますけれども、この目的は、食育に関心を持って、家庭でもおいしい食事をみんなで家族そろって楽しく食べてほしいと、こういうことが狙いだと思います。これだけの反響があると塩尻市をもっと知って欲しいというちょっと色気が出てきちゃうんです。

小島委員 私は塩尻市のホームページから入ったので、どうしても。

小澤委員長 こんこんってどこって感じ。

小島委員 そう言われればまあそんなような気もしますけれど。

小澤委員長 いかがですか。

小林こども教育部次長（教育総務課長） 今の時点ですと、オープニングで真っ先にぼんと出る画面のところは、いわゆる塩尻市の今のブランドマークですかね、ぶどうのシルエットの、あれを出して塩尻市給食レシピというような形で、まずはポンと出るようになっています。その後、料理の写真がいろいろ映ったりするんですけども。あと、こんこんレシピってナニっていうようなところで、給食のレシピ集としての、このサイトの目的ですとか、そういったものを出しています。例えば「こんこん」ってナニとかですね、そういうところで説明しています。その塩尻色っていうのをどのぐらい出すかっていうのでなかなか難しいところなんですけど、レシピ集としての使いやすさと、そういうところのブランド感というか、そういったものについても今後まだホームページではどんどん継続してブラッシュアップしていく予定ですので、また適宜取り組んでいきたいと思っております。なお、ヤフーなどの検索サイトでも塩尻市の給食サイトということで検索結果が出てきますので、そういうところでもわかっていただけるかなと思っております。

小澤委員長 ありがとうございます。5号、よろしいですか。

○報告第6号 平成25年度中学校卒業生進路状況について〈非公開〉

小澤委員長 それでは、次に6号のほうへ入ります。平成25年度中学校の卒業生進路状況であります。本日資料を配付されました6号、7号、それから議事第1号、この3つは非公開としたいわけですが、委員の皆さん、非公開でよろしいでしょうか。それでは、非公開といたします。

〈非公開部分削除〉

○報告第7号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について〈非公開〉

〈非公開部分削除〉

4 議 事

○議事第1号 平成26年度塩尻市奨学生の選考について〈非公開〉

〈非公開部分削除〉

小澤委員長 非公開を解きます。

○議事第2号 図書館サービス計画について

小澤委員長 進めます。議事第2号図書館サービス計画についてを議題といたします。資料の15ページと別冊であります。センター長から御説明をお願いします。

伊東市民交流センター長(図書館長) それでは、15ページからですが、趣旨にございますとおり、平成22年に新しい図書館とともに新しい運営をスタートさせております。図書館基本計画に基づいて行っておりましたが、10年たちましたので、市の総合計画の策定にあわせてここでサービス計画を策定してまいりたいということで、教育委員会として定めていただきたいということでお願いしてございます。

別冊のほうでちょっと説明をさせていただきますが、初めに一番最後のページ、37ページをお開きください。今までの経過を書いてございますが、26年1月23日に協議会のほうへその時点でのものをお出しして御検討をいただきながらという形にさせていただきますが、その時点で骨格は完全に定まった形でお出ししてございまして、その後、文言とか中身についての精査をしながら図書館協議会に諮り定めてまいったということで、パブリックコメントが4月に終わっておりますので、最終的にここに出せたというような経過になってございます。

それから開いているついでなんですけど、その前のページ、裏表がですね、中で書いてありますさまざまな指標の基礎数値になるページなんですけど、お送りしたときに25年はまだ集計し終わっておりませんでしたので空欄になっておりますけれど、きょう、25年の数値を入れて別紙を配付させていただきました。正式なものは、入れた数字で入れてまいりたいというふうに思っております。

それでは、初めのほうの1ページをお願いしたいと思います。全体多く変わっておりませんし、ちょっと時間も押しておるようですので、飛ばし飛ばしの説明になりますけれど、よろしく願いいたします。

1番のところでもまず、策定にあたってということで書いてございますが、下の部分、下から7行目のところに、今、私言いました基本計画がつけられた中で新しい図書館サービスが始まったので、今回それに伴う新しい指針を定めてまいりたいということ。それから、計画自体は26年度から35年度までの10カ年計画ということで、総合計画が9カ年で来年度から始まるという予定になっておりますので、終了期を同じにして10カ年という形にさせていただいておりますし、前期・中期・後期に分けて、それぞれ評価をその時点でもってしていきたいということにしてございます。

めくっていただきまして、塩尻市立図書館は何をしていきたいんだという部分のミッションのページになりますが、2段落目、市民交流センターは、というところがございます。市民交流センターの中で動いているという中で、「知恵の交流を通じた人づくりの場」をセンターの基本方針にしてございますので、図書館もそれに準ずるということでございます。それから、センターの基本的な

重点分野がありまして、その中で目指すこととして①、②、③を掲げてございます。図書館もそれに準じるということで、下半分のところになりますが、ミッションとして同じです。同じミッションを掲げて、目指すことにつきましては、役立つ情報を提供する図書館、それから、意欲と活動を応援する図書館、進化する図書館という3本を目指す柱、サービス計画の柱ということにしてあります。

次の3ページにまいりまして、そのそれぞれが何を指しているのかという説明をしてございますが、役立つ情報を提供する図書館につきましては、図書館の基幹部分、資料の収集・保存・活用という基本的なものについて、総合力の基本として取り組んでいくんだということを書いてございまして、2番の意欲と活動を応援する図書館につきましては、それぞれの相互の活用の中で児童サービスとか、障害者サービスとか、外国人サービスとか、いろいろなサービスがございまして。それぞれの個別サービスの目標をこの②番の中に取り込んでまいると。3番の進化する図書館につきましては、これが22年のオープン以来、図書館が変わったと言いますか、読書の館ではないんだと、図書館というものは、もっともっと幅広い市民生活を支える機能を持ってるんだということを始めていたわけですが、その部分に入る部分をこの3番の中に取り込んでいたというような具体的な見方で、めくっていただいて4ページ、一覧表にしてみますと、この左側にあります3本の柱の下にぶら下がる形で、内容のところにありますとおり、1番については(ア)から(オ)、2番については(ア)から(ケ)、3については(ア)から(オ)という、それぞれの項目が分類されているというつくりになっております。

5ページ以降、その(ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)それぞれを1ページずつ分析したものにつきましては、5ページを見ていただければと思いますが、現状と課題の洗い出し、それにあわせてサービス方針の決定、それに基づいた今後の計画。今後の計画につきましては、一応10年をにらんでおります。最後にサービス指標。これを各(ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)ごとの1つごとに、1つピックアップして指標を出すという形をしてございます。そればかりでは、もちろん、ないわけですけど、わかりやすく1つに1つという形でもってそれぞれやっております、つくりとしてはそういうことで。逐一これをやりますと時間がないので、全部飛ばさせていただきますけれど、今、資料の関係、それから児童サービス、青少年サービス等々ずっとですね、23ページまであるということで、めくっていただいて24ページに、4年後に評価をしますと、といっても毎年実際はやるわけなんですけれど、きちんとした形でやるのは4年後にするために、このサービス指標一覧をもって10年後に評価ができるようにというつくりをしてございます。ちなみに、4年後にはマイナーチェンジと言いますか、その段階で時代も変わればいろいろ変わりますし、指標があつという間にクリアされてしまうというようなこともあるかもしれませんし、全然届かないこともあるかもしれません。改めてそこで見直しをするという考え方であります。

以下は、資料編になっております。1点、26ページですね、ちょうど真ん中あたりですが、「奈良井千軒といわれるほど繁栄した個性的な街並みが今も保存されている」という文章が真ん中にあります。この街並みの街という字が間違っしてしましまして、申しわけありません。2行下にも町並みと同じ字がありますが、そちらの町並み、ちょうの町に変えていただけたらと思います。あとは資料になりますので省かせていただきますが、アンケート等を反映してそれぞれ分析、内容を評価してきているというようなつくりになってございます。よろしく願いいたします。

小澤委員長 1月のときに御説明いただいたわけでありまして、重ねて御質問等お寄せください。せっかく時間をいただいておりますので、1点、よろしいですか。過日、学力実態調査の中で学力と子供の生活事情との考察がでてるんです。経済格差のある中、学力増進を図るためには何をするか。図書館が非常にいいというのです。図書館の効用っていうのは、相当クローズアップされ

ていくと思います。そういう面で、示されているサービス計画っていうのは、非常にきめ細やかで、大変ニーズに応じられるものだなというふうに思うわけです。

次に、地域資料、郷土資料の蓄積、整理、保存という項があります。ページは、19ページであります。教育委員会の中に古文書センターっていうのがある。これとの関係で、これを図書館へ移して大事に扱うというようなお考えはあるかないか、そここのところを聞きたいわけでありまして。

2つ目、21ページに、市民が持っている本をピックアップさせたいと。そして、本と市民との関係をつくっていききたいというようなくだりがあるわけでありまして。ここでは本という窓口です。市民は、本に限らず、例えば書、あるいは陶芸とか、あるいは工芸だとか、いろいろなものを持っていらっしゃるんです。それにまつわる書物っていうのは当然周辺のものとして、付随するものとしてついて回るわけです。そうした時に、本以外にも、いろいろそういうものを視野に入れたらどうかという提案なんです。

もう一つ。学校の図書館。きょうも新聞に載ってました。学校図書館と図書館の職員の方が合同の研修会を持って、ソフト面、業務に向かう姿勢づくりについてお勉強したという記事が載っておりました。それは、ソフト面として考え、ハード面としては、学校図書館は、暗いんです。堅いんです。魅力がないんです。そういう感じがあるんです。そこら辺は、書架の配置の工夫が足りないのか、ちょっとわかりませんが、そこら辺のところへ、てこ入れしていただければありがたいなという思いがあります。

伊東市民交流センター長（図書館長） 初めの古文書の件につきましてはですね、えんば一くをつくる時にちょっと議論にはなっているんですが、結構な量がやはりありまして、いわゆる保存設備的なものをですね、つくるつくりたくない話だったんですけど、当時は。ちょっとそこまでのものはできないだろうと、規模的にもということで、組織をそれに被せると今までどおりでいこうみたいな形でとりあえずなったんですけど、ちょっとうちのほうにその余力が現在あるのかどうかという、いわゆる長い期間保存するための設備というものが、そういうわけで作られなかったの。意見の出る限りは継続的に考えていかなければならないものだろうなということで、今どうしようという方向性はとりあえず持っていない状態になっております。お話いただきましたので、また改めて検討課題にさせていただきたいなというふうに思っております。

それから、本以外の書、陶芸、その他いろいろ絵画もいろいろあると思いますけれど、私どものやっている企画関係は、陶芸で全然構わないといえますか、陶芸展をやってただけでしたらうちがやらなくてもいいと思うんですけど、私どもでやるところには、必ずその先にある本、本を、本当のブックの本だけでなくデジタル情報でも何でも構わないと思うんですけど、そういう読むというようなところにつながる形でいつも企画することにしておりますので、例えば、サッカーのコーナーも常設でつくってしまいましたけど、スポーツであろうが何であろうが、その先の書物とつないで読書を通じた人づくりというところにほしていけば、あらゆることができるだろうという、ビジネス支援であろうが法律支援であろうがですね、ということでやっておりますので、今おっしゃっていただいた形で引き続きやっていきたいなというふうに思っております。

それから、学校図書館につきましては、ちょうど本の寺子屋で横が学校連携のページに、20ページとなっておりますけれど、今後の計画のところにも、書棚等の設備配置や資料の並べ方の工夫など、利用しやすい図書館づくりを支援するという項目がございますが、正直、言っちゃいけないのかな、やることは相当たくさんあるだろうと、学校図書館ですね、思っております。ただ、私どもが出かけていって、ああしよう、こうしようというわけにはいきませんので。だからこそ25年からの図書館連携といえますか、市立図書館と学校図書館の連携という言葉が始まったんだろうというふうに思っております、こちらに扉を開いていただかないと入ってはいけませんので、

一定のパイプができたということで。実際、去年の場合、楯中と楯小からそういう要望がありまして、ちょっと課題として持ってるんだけど、どうしていいかわからないんで一緒にやってくれないかということで、いろいろ検討時間を重ねた上でうちの職員が数名ある日行きまして、一緒になって書架を動かしたりですね、いろいろなことをやったなんていうことをやって、2校とも、この間ちょうどお会いしたら、ありがとうございます、とってもよくなって子供たち喜んでますみたいな話を聞かせていただいて、私もうれしかったんですけど。そんなことが、今、去年から始めた学校連携、やっと2年目に入ったところで順調だとはちょっといいがたい部分がありますけれど、そんな形でもって広がっていけばいいなと思っております。おっしゃるとおり、相当手を入れるべき、書架ばかりじゃなくてですね、本の配置、表示の仕方、ましてや、多分子供への紹介というような部分、ソフトウェアの部分になると、相当まだまだやれるんだらうというふうに分はしております。

小澤委員長 ありがとうございます。

渡邊社会教育課専門幹 古文書室を所管しております社会教育課文化財係といたしまして、御説明を申し上げます。古文書室では、近世以前の、要するに江戸時代以前の文書を収蔵し、それらに対して保存と目録の作成等を行っております。それ以後、近代以降のものにつきましては、行政文書といたしまして総務部の庶務課で保存等を行っていることと承知しております。その中で、やはり古文書に対しましては、図書館の司書という1つの資格の中で扱えるかと言いますと、なかなか難しい話でありまして、学芸員等が古文書に対する知識を持って文化財の保存をするということでありまして。しかしながら、全ての文書、寄託文書は個人の所有でありますのでそれまで責任を負いかねるということから、塩尻市の場合、寄贈いただいたものみの18家の約2万点の文書を整理してございます。それらに対して図書館のほうから照会があるとするならば、私どものチャンネルでそれらを引き出すという方法が一番よろしいのではないかと。また、それらを統合するということとはまた別の次元で考えて、特に公文書館などというような形のものが、新たにできるとするならば所管の合体は考えられますが、今のような図書館と文化財の中での近世文書ということならば、今の現況がよろしいのではないかと、というようなことも含めて、図書館の皆さんとも協議してまいりたいと考えております。以上です。

小澤委員長 ありがとうございます。質疑、よろしいでしょうか。

それでは、お諮りいたします。議事第2号、原案のとおり決することに異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

小澤委員長 それでは、原案のとおり決しました。事務的なことについては、よろしく願いいたします。

5 その他

○その他第1号 塩尻市スポーツ推進計画の策定について

小澤委員長 その他に入ります。第1号塩尻市スポーツ推進計画の策定について御説明をお願いいたします。

青木生涯学習部次長（スポーツ推進課長） それでは、資料No. 7になりますけれども、ページで言えば16、17ページ、塩尻市スポーツ推進計画の策定についてお願いいたします。

目的でございますけれども、平成23年8月にスポーツ基本法が定められまして、その中で市町村はスポーツ推進計画を定めるよう努めなさいという努力義務になっておりますので、それに基づいて、今後の塩尻市のスポーツ推進施策の指針となるべき計画を、第五次総合計画の個別計画とし

て策定していきたいというものでございます。

策定期間につきましては、今年度中に策定をしたいというものでございます。

策定方法でございますけれども、計画策定に当たりましては、塩尻市スポーツ推進計画懇話会を設置いたしまして、5回程度会議を開催し、市民の皆さんの意見を聴きながら作ってきたいというものと、あわせて平成24年度に実施いたしました社会体育意識実態調査のデータを利用してきたいというものでございます。

懇話会の構成及び委員選出につきましては、16ページの下の表にございますとおり、体育関係者4人、教育関係者2人、識見を有する者1人、それから市長が必要と認める者といたしまして市内の関係団体から3人、それから公募で一般市民の方2人、合計12人を予定しておりまして、現在、一番下の公募の2名の方を除いて、各関係団体に選出依頼をしている状況でございます。公募の方につきましては、5月1日号の広報で2人の公募をしていきたいというものでございます。

今後のスケジュールでございますけれども、17ページにございますが、委員選出を済ませまして、6月2日に第1回の懇話会を開催し、その後1年かけて懇話会で意見を聴きながら計画を作ってまいります。教育委員会には、10月に計画の中間報告をさせていただきまして、最終3月の定例教育委員会で推進計画の決定をいただいて、公表していく予定であります。今年度、1年間かけて策定していくものですので、よろしく願いいたします。以上です。

小澤委員長 ありがとうございます。御質問、御意見等ございますか。

この公募は、5月1日から始めるわけですが、これからのスポーツは、アスリートを養成するのではなくて高齢者をも含む健康増進とか、そういう面を勘案した計画ということを言われていると思います。そうしたときに、公募にはぜひ、ある程度経験というか人生経験のある方を委員に入れておいていただきたいなど、そんなことを思います。よろしく願いします。

青木生涯学習部次長（スポーツ推進課長） 公募の委員は、2人の定員でございますので、応募された中で考慮していきたいと思っておりますけれども、福祉や介護予防の関係もございまして、公募の方とは別に、16ページの表にございますとおり、市内団体の中でヘルスアップ委員がそういった活動をしているということで、メンバーに入っただく予定です。また、本年度は、第五次総合計画にあわせて市の色々な計画が策定予定となっておりますので、関係各課とも整合を図りながら作ってきたいと考えております。

小澤委員長 ありがとうございます。

○その他第2号 塩尻市生涯学習推進プランⅢの策定について

小澤委員長 第2号塩尻市生涯学習推進プランⅢについて御説明をお願いいたします。

百瀬社会教育課長 それではお願いいたします。18ページになりますが、資料No. 8でございます。生涯学習推進プランⅢの策定についてお願い申し上げます。

策定の目的でございますが、生涯にわたりましていつでもどこでも誰もが学習することのできる社会の実現を目指しまして、生涯学習推進プランⅢを第五次塩尻市総合計画の個別計画といたしまして、市の教育振興基本計画等と整合を図りながらですね、策定をしてまいりたいということでありませう。

策定期間につきましては、今年度がプランⅡの最終年度ということになりまして、今年度中にプランⅢを策定して来年度からの目標にさせていただきたいということになります。

策定方法につきましては、先ほどお話ししたとおり五次の塩尻市総合計画、市の教育振興基本計画等とですね、十分な連携を図りながら策定してまいります。策定する業者に関しましては、両方とも、総合計画、振興計画ともに携わっております業者に委託をしてですね、十分整合性を図る

て社会教育委員会等に諮りながら十分な意見をお聞きして、そういった皆さんの御意見を反映する中で策定を進めてまいりたいと思います。またですね、15歳以上の市民の皆さんを無作為に抽出しまして、1,000人を対象としてアンケートを実施してまいりたいというふうに思っております。

4番目に、これまでの経過ということで記載がありますが、このプランにつきましては、平成5年3月、まず初代のプランができましたけれども、この後、平成18年にプランⅡが策定され、今年度プランⅢの策定ということで進めてまいっているところであります。

次のページになりますが、今後のスケジュールになります。業者等との打ち合わせをしながら、これから契約を結び、市民アンケート等をしながら社会教育委員の皆さんに諮問をして、途中教育委員会にもお諮りしながら、3月には策定を目指してまいりたいというふうに思っております。以上です。

小澤委員長 教育委員会で中間報告は、10月。

百瀬社会教育課長 そうです。

小澤委員長 御意見ありますでしょうか。いいですか。

ありがとうございました。本日予定されている案件は全て終了いたします。ほかに、事務局からありますでしょうか。よろしいですか。委員のほうから。

6 閉会

小澤委員長 それでは、以上で4月の定例教育委員会を閉会といたします。ありがとうございました。

○ 午後3時15分に閉会する

以上